



中村俊定文庫
文庫 18
438
3





反古文庫卷之三

春銘

紫燕老丸舟述



更婦の舟にむいませし想い天の地とらなれ地を天哉
 といひみて春暮秋をりたのみをの始りて
 といひて又りはゆらゆらと終りて
 暮る。おる雨はしこめおまゆく。きけ依たよりふききとほりまた
 多しももたよ。あは甘き音や降る我ふ終りて候とほり
 終りてはちかふる口舌をあらし。たましく雷かみなりは行
 積たまり地を衣かき乃いぬくちるちかき終りてはちかき
 ちも神かみいなる限るもちかき目もとちかき。終りてはちかき不あ易

乃ち終りて。可也乃父母とはりまうり候とらとて
 地乃懐かたら天ふもあはれ。天乃おりのあけし地ありて
 なく。陰陽かげ和合わがひ自然乃る理なるのくされて天あり
 地あり。地ありに天あり。春うけは道に候まありて候とら
 ちかきはのま候言乃との是なる春うけは道に候とら
 候とら。今も春うけは道に候とら。いと子候とら
 ちかきしるも目出候とら。

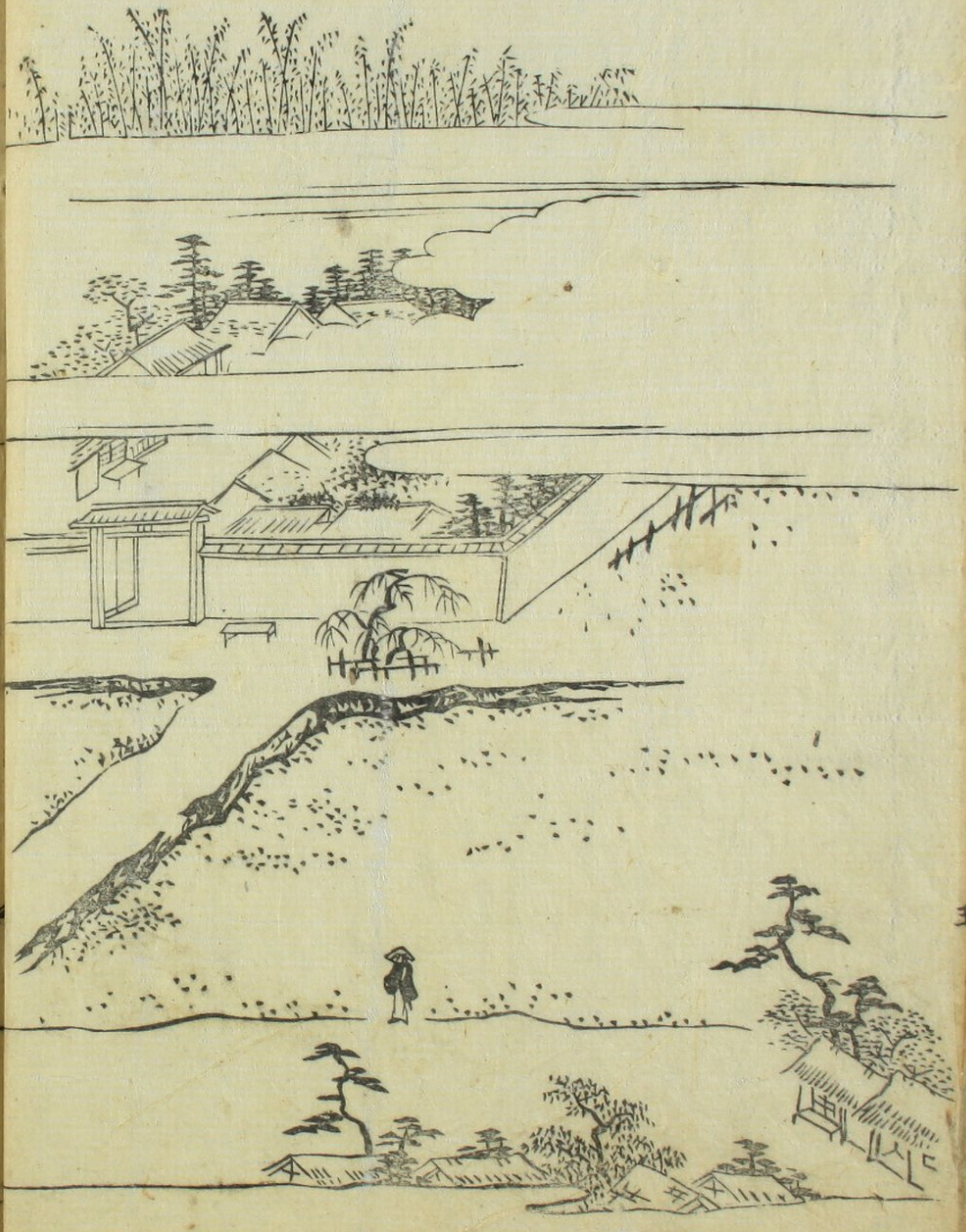
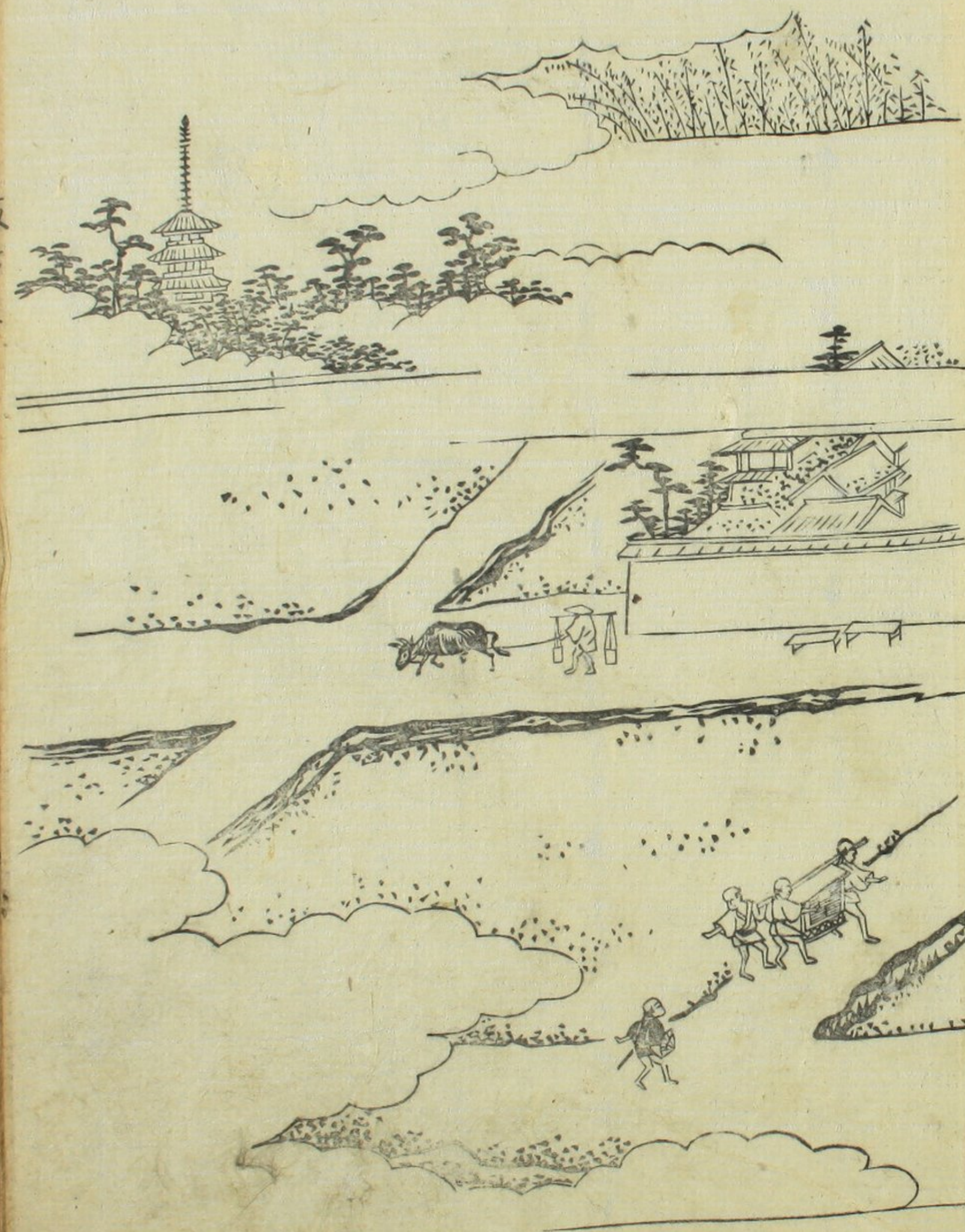
不夜城賦

更月星乃未可多いさよ吉野きよの又また神かみ六む志し山やま也
 後のち河のちる海うみに松まつ島島巖いわ崎さき橋はし立たつてはと松まつ系けい終つひなり
 古ふるくわさる波なみやちとつ。和わ音ね乃の浦うら波なみ流ながれしと山やまに
 舟ふね乃の長ながく。そとちいりらるる山やまの山やまに
 ちりぬと山やまに。翠すい平へい黛たい隱いんくやちちたをさすい
 榮さか者ものほのふちる統とん。又また白しろ雲うみ乃の雪ゆきをさやらけてさ
 音ね終つひに布ふ小こ紅べに葉はやちた。水みづ乃の流ながれはとありて
 落おちく流ながれと流ながれをさす。そと乃の流ながれはとありて
 とちり流ながれとありて。山やまにちりるる山やまにちりるる



あうのうさの

しるしとありて







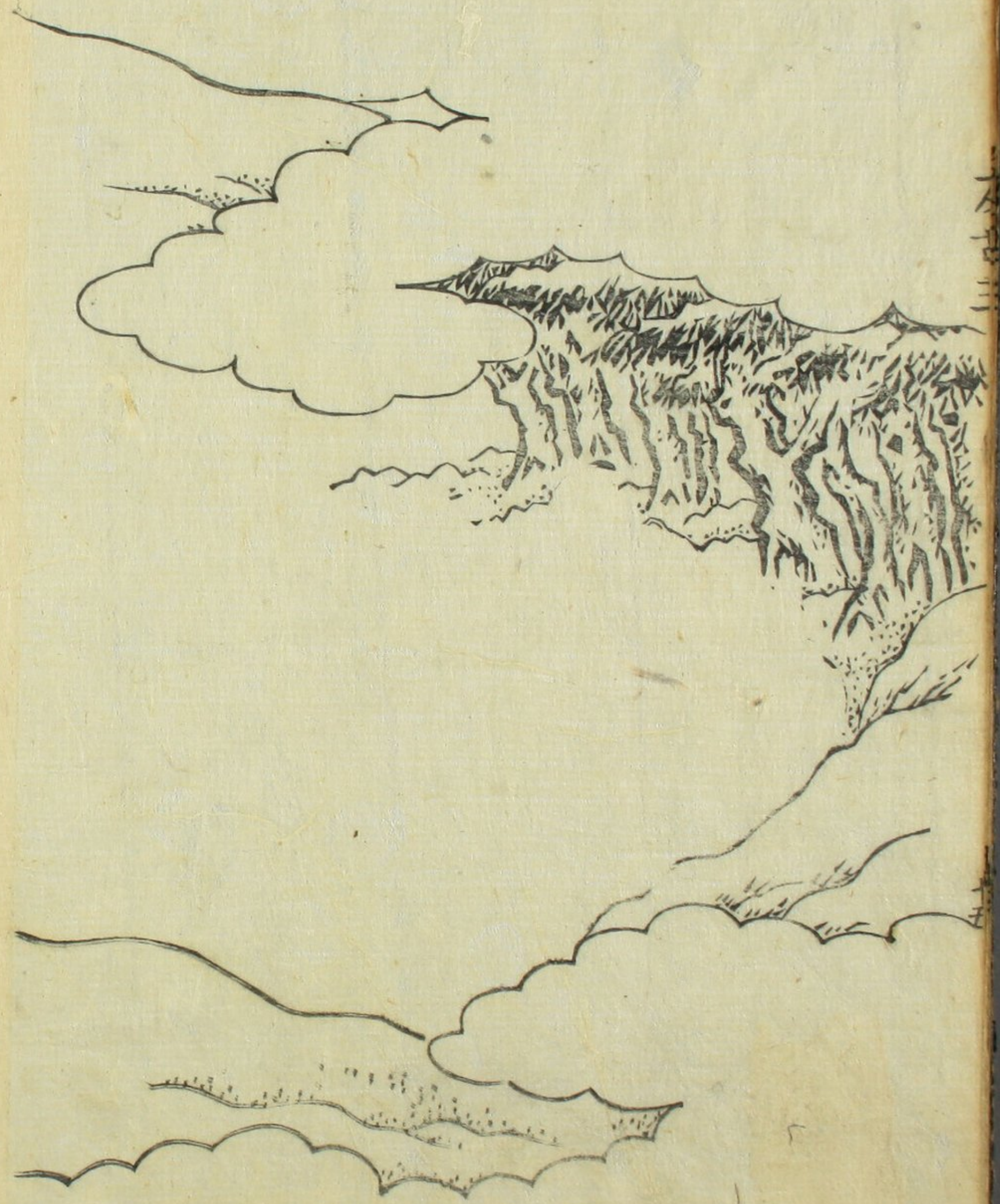
宮川節記

瀧乃乃小川の清々とい月と流るるはのそは。室代なり
 宮川節といふは。往昔おろく洪水一雙六乃目録ま
 あらぬゆゑや。禹王乃宮方一と名をふ。いひむくは
 ぐりね。重なる水を。枝とさくさぬ聖代へは。さき
 岩より重目乃軒建はる。乞目乃なるを。知るはなり。
 是又目乃乃記する。そのまき此八橋や。若くは乃容貌ハ
 十系乃瑜伽乃清水を湯ふ。直指人少見性乃声
 也。そを又又又又化け。唐我朝乃知縁達乃何は
 のまきあゝ起請ハ。則は乃乃切と名く成。妙乃二字と名
 物や。いふ二字おしとて。流るる板の難事ハ。いふ。

反古三



反古三





乃ハ千代とていへし心にくく

果せぬ乃神事やあふ糸車

板とらり其目も椿多にわづれ。室もわづれ字もささく。板
を申乃ほゆらうか。雪深く。ぬる四日とて大い敷くあれ
るこし。あけぬ乃雪をわづれわづれ歌ふに透るし
案内乃尻とてきまきわゆる。おき乃嵐は凍はく。か
かふふく予も僕も。二三日見ると不ぞくもたれく。是
らうの谷幅もいかに度く。天窓乃よしく。は。雪さ
か。道もさく。きんハ谷川も埋積。雪まか。こ
流る。雪乃さく。雪まか。て案内乃者這下。杖を
さき尻抱。雪。とも其あく。ひとく。小行者若乃也

一も似ん水をけりてなす股成漸。二夜目より水溢るハ
僕人足り春に着きて

ぬるもハ案内乃しちり芬川

深ヶ瀬もる。本は本の宿へ出れ。令成つてらる。い。さ
い。さ。雪。一。雪。を。か。つ。つ。て。さ。さ。雪。の。つ。つ。と。突。斗。つ。つ。と。
う。い。雪。の。つ。つ。と。久。く。さ。さ。雪。の。つ。つ。と。つ。つ。と。つ。つ。と。
一。つ。つ。と。長。江。の。宿。一。つ。つ。と。不。曉。ふ。出。れ。た。ハ。伊。吹。山。ま。い。白。く。
右。を。湖。水。浸。く。諸。小。枯。積。く。さ。さ。雪。の。つ。つ。と。水。多。く。乃。お。さ。
ハ。雪。を。取。り。上。り。て。程。多。く。さ。さ。雪。を。井。中。に。い。れ。れ。自
然。の。雪。も。旅。の。中。仙。乃。志。安。や。あ。つ。り。の。木。一。つ。つ。と。
去年もささ雪にゆきし。つ。つ。と。や。風。呂。の。先。を。い。さ。さ。雪。の。つ。つ。と。

